

講義名	教養特講Ⅰ（働くことを考える）		
科目区分	教養特講		
担当教員	上瀧 真生		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限	授業形態	
	2020年度 人間社会学部 人間健康学科/2020年度 人間社会学部 観光学科/2020年度 人間社会学部 人間社会学科/2020年度 経済学部 経済情報学科/2020年度 経済学部 経済学科/2020年度 商学部 マーケティング学科/2020年度 商学部 経営学科		
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要			
<p>大学を卒業すれば、みなさんは社会に出て働くことになる。大学4年間はそれに向けた準備の時期である。もちろん、大学生の期間にもアルバイトをつうじて働くことを経験する者は多い。しかし、働くことについて、日本社会における全体状況を見渡して客観的に考える機会は少ない。</p> <p>この講義では、学生アルバイト、就職、雇用と失業、賃金、労働時間、男女の働き方など、これからみなさんが経験するであろう働くことをめぐる諸問題を取りあげ、その現状を伝えながら、働くことの意味をどう捉え、大学生生活をどう過ごすのか、また、卒業後の職業生活にどういう姿勢で臨むのか、ともに考える。ディスカッションの要素も取り入れながら、みなさん自身が働くことについて自分なりの考えをまとめ、表明できるようになることをめざす。</p>			

到達目標			
<p>①今日の日本において働くことに関わる諸問題について、概括的に理解する。</p> <p>②以上を踏まえて、働くことの意味と大学生活の過ごし方について、自分なりの考えをもつ。</p>			

提出課題			
<p>①毎回、簡単な課題を課す（キャンパス立ち入り禁止期間は、RYUKA Portal のレポート機能による提出を求める）。</p> <p>②講義で取り上げた諸問題のうち、一つの問題について論じる最終レポートを課す。</p>			

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
<p>毎回の課題については、コメントをつけ、翌週の講義で返却する（キャンパス立ち入り禁止期間は、教務連絡をつうじて採点結果を伝える）。</p> <p>最終レポートについては、要望があれば採点結果を伝える。</p>			

評価の基準			
<p>毎回の課題と最終レポートとの合計点で評価する。</p> <p>毎回の課題 70点 最終レポート 30点</p>			

履修にあたっての注意・助言他			
<p>受講生自身が新聞やニュースを通じて、働くことをめぐる諸問題に注目する努力をしてほしい。</p> <p>なお、円滑に講義を行うため、以下のとおり受講ルールを定める（通常講義の場合）。</p> <p>①13:15以降は入退室禁止</p> <p>②座席は教員の指示に従う。</p> <p>③私語は厳禁。目にあまる場合は退室してもらう。</p> <p>④携帯などは扱わない。</p> <p>*キャンパス立ち入り禁止期間は、「課題学修型」の代替授業を行う。</p>			

教科書	
<p>.教科書は使用しない。.</p>	

プリント資料及び参考文献	
<p>毎回、プリント資料を配付する。</p>	

授業計画	
01	働くことの意味を考える①働くことの喜びと苦しみ
02	働くことの意味を考える②どうすれば、働くことの喜びを増し、苦しみを減らせるか
03	アルバイトを考える①一流通科大学生のアルバイトの現状
04	アルバイトを考える②大学生生活を豊かにするアリバイのあり方
05	就職を考える①就職をめぐる状況
06	就職を考える②卒業時に悔いのない大学生生活を計画する
07	雇用と失業を考える①雇用と失業をめぐる状況
08	雇用と失業を考える②雇用と失業をめぐる状況をどう改善するか
09	賃金を考える①賃金をめぐる状況
10	賃金を考える②賃金をめぐる状況をどう改善するか
11	労働時間を考える①労働時間をめぐる状況
12	労働時間を考える②労働時間をめぐる状況をどう改善するか
13	男女の働き方を考える①男女の働き方をめぐる状況
14	男女の働き方を考える②男女の働き方をめぐる状況をどう改善するか
15	再度、働くことの意味を考える
*講義開始が当初予定より2週間遅れたため、以上のうち2時限分は補講とする。補講については別途指示する。	

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
	ア：PBL（課題解決型学習）
	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/>	ウ：ディスカッション、ディベート
	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション
	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
毎回の課題をふまえた講義内容の振り返り	45時間
最終レポートの準備	15時間

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	
<p>授業内でグループに分かれてディスカッションしてもらい、その結果を発表してもらおう（キャンパス立ち入り禁止期間は、課題の提出によって代替する）。</p>	

実務経験の有無及び活用	

備考	